

七戸高等学校振興のためのアンケート

高校生抽出考察

令和3年4月20日

要領

実施月	令和3年2月～令和3年3月	
対象	七戸高校1年生	100名
	七戸高校2年生	94名
	計	194名
目的	①七戸高校生徒の意向調査、ニーズの把握	
	②アンケート実施自体での七戸高校の取り組みの認知向上	
	③令和3年度開校予定の公営塾の事前告知、認識調査	

結果

アンケートの目的に沿った項目を抽出

高校選びの基準

1位	自分の学力にあうから	30.9%
2位	地元にある学校だから	19.6%
3位	学びたい科目があるから	10.3%
3位	将来の夢や目標をかなえるため、進学に有利と思うから	10.3%
5位	通学に便利だから	6.7%

七戸町へ望む七戸高校への支援策（高校生合計）

1 位	通学費用補助	16.3%
2 位	制服購入費用補助	13.4%
3 位	修学旅行費用補助	11.9%
4 位	教材費用補助	11.4%
5 位	模擬試験費用補助	9.7%

将来、七戸町で生活・就職したいと思うか（高校生合計）

1 位	生活・就職したくない	60.8%
2 位	わからない	28.9%
3 位	生活・就職したい	8.8%

公営塾の利用について（高校生合計）

1 位	毎日ではないが、利用したい	27.8%
2 位	テスト前やテスト期間中に利用したい	26.3%
3 位	多分利用しない	19.1%
4 位	利用しない	10.3%
5 位	夏休みや冬休み等長期休暇中に利用したい	6.2%
6 位	部活引退後に利用したい	4.6%
7 位	ほぼ毎日利用したい	3.6%

公営塾の利用回数について（高校生合計）

●希望する授業回数

1 位	週 2 回	34.5%
2 位	週 3 回	27.3%
3 位	週 1 回	26.8%
4 位	週 5 回以上	3.6%
5 位	週 4 回	2.1%

●希望する自習室利用回数

1 位	週 1 回	28.4%
2 位	週 3 回	20.6%
3 位	週 2 回	19.6%
4 位	週 5 回以上	18.0%
5 位	週 4 回	8.8%

考察

本アンケートの実施により、目的であった七戸高校在校生のニーズ把握ができたものと考えます。

アンケート結果より明確化した七戸高校魅力化の課題

- ① 学力・偏差値・大学進学率の向上
- ② 部活動の多様化・強化

七戸高校の在校生は、七戸高校を選ぶ基準として「将来の進学・就職」に重点を置きつつ、自分自身の学力や通学時の利便性により選択しているケースが非常に多い。また、町外出身の生徒が約 70%を占めていることを考慮すると、「学びたい科目があること」が大きな決め手となっていると考えられる。

- 「七戸高校に行きたい」と思わせる魅力づくり
- 将来を見据え、進学先として選ばれる環境づくり
- 総合学科でも普通科と同様に大学進学を目指せると判断される環境整備

進路に応じて系列や科目を選択できることが総合学科の特色ではあるが、同時に、進学希望の生徒から就職希望の生徒までが同じ教室で学ぶことで、「進学指導はしてくれるが、就職指導に不満がある」や「大学を目指している生徒へ進学のための指導をもっとしてほしい」などの保護者からの回答があり、また、高校生徒からも「もう少し進学指導をしてほしい」などの回答があることから、進学のための学習環境としてのイメージがマイナスに働き、高校選びの際のマイナスイメージとなっている可能性が高い。

- 七戸高校の魅力の発信の強化
- 学校以外での学習環境や仕組みの整備と広報活動の必要性

その他、大学進学に必要な学力を身に付けるための学習環境、部活動、競争力、人間関係や環境に刺激を求めて町外の高校に進学する中学生が多い。

- 町内外からの入学者を増やし、部活動の活性化、環境の多様化
- 外部人材の活用

在校生の約 70%を七戸町外の生徒が占めていることを考慮しても、将来、七戸町で生活・就職したいと考える高校生が非常に少ない。

- 町外進学者数を減らし、七戸高校へ進学する生徒の増加の必要性
- 町外へ出てしまうことでの郷土愛の低下の恐れ

七戸高等学校振興のためのアンケート

中学生保護者抽出考察

令和3年4月20日

要領

実施月	令和3年2月～令和3年3月	
対象	七戸中学校・天間林中学校の保護者	297名
目的	①中学生保護者の意向調査、ニーズの把握 ②アンケート実施自体での七戸高校取り組みの認知向上 ③令和3年度開校予定である公営塾の事前告知、認識調査	

結果

アンケートの目的に沿った項目を抽出

高校選びの基準（保護者合計）

1位	子どもの学力にあうから	24.6%
2位	地元にある学校だから	20.9%
3位	将来の夢や目標をかなえるため、進学に有利と思うから	19.9%
4位	学びたい科目があるから	13.5%
5位	校訓や学校のイメージ・評判が良いから	6.4%

中学生の高校選択時の希望進路（保護者合計）

大学進学を視野に入れている	41.6%
---------------	-------

七戸町へ望む七戸高校への支援策（保護者合計）

1 位	制服購入費用補助	15.6%
2 位	教材費用補助	14.0%
3 位	学校給食提供	13.7%
4 位	通学費補助	9.6%
5 位	修学旅行費用補助	8.1%

七戸高校へ望むもの（保護者合計）

1 位	学力の向上	26.5%
2 位	高い就職率	21.3%
3 位	部活動の充実	12.7%

七戸高校の募集停止に繋がる可能性があることに対する意見

▪ 存続を希望している意見	40 件
▪ 残念、寂しく思う	16 件
▪ どちらともいえない	4 件
▪ 募集停止も仕方ないと考える意見	20 件

高校の取組み・行事の認知度の課題

【保護者が「知らない」（50%以上）項目】 3 項目/ 5 項目中

多様な進路に対応した 4 つの系列	42.1%
自分の将来について考えるキャリア教育	54.5%
自分の進路や興味関心に合わせて「デザインできるカリキュラム」	52.9%
生徒一人一人の夢や希望に応じたきめ細かな進路指導	62.0%
トラジョサンバを通じた地域との交流	21.9%

公営塾の利用回数について（保護者合計）

●希望する授業回数

1位	週3回	37.4%
2位	週2回	35.7%
3位	週5回以上	9.1%
4位	週1回	8.1%
5位	週4回	4.7%

●希望する自習室利用回数

1位	週5回以上	33.0%
2位	週3回	23.9%
3位	週2回	19.9%
4位	週4回	9.8%
5位	週1回	7.4%

公営塾開校となった場合の七戸高校への進学意欲（保護者合計）

ぜひ七戸高校へ進学したいと思う	22.6%
今よりは進学したいと思う気持ちが高まる	49.5%
今と変わらない	25.9%
(公営塾ができたからといって、七戸高校へ進学したいとは思わない)	
未記入	1.7%

考察

本アンケートの実施により、目的であった保護者のニーズの把握、アンケート実施自体での七戸高校の取組みの周知ができたものと考えます。

保護者の約40%が大学進学を視野に入れているが、結果として七戸高校は大学進学に有利ではないと判断されている。ただ、公営塾が開校となった場合に、七戸高校への進学を検討したいと考える保護者は1・2年生の保護者で70%を超える。

→大学進学を目指せると判断される環境整備

→将来を見据え、安心して通わせられる環境づくり

高校選びの基準として「地元志向」が生徒と比べ低い。

→通いやすさや地元への貢献より、学習環境などの将来への投資を優先させている。

→七戸高校が進学や就職に有利と判断されれば、多くの保護者が七戸高校を選ぶ可能性は十分に考えられる。

七戸高校の存続を望む保護者の割合は、仕方がないとする保護者の割合とあまり差異がないと考えられる。

→子どもの将来を最優先させた結果である。

→七戸高校が進学や就職に有利と判断されれば、多くの保護者が七戸高校の存続を望む可能性は高いと考えられる。

自然豊かな環境が魅力であると認識されているが、明るい・活気があるといったイメージが無い。

→強みを生かし、不便さを魅力へ

→町内で勉強や部活に集中でき、子供たちが生き生きと出来る環境のアピール

高校の存続のためには、地元進学率を向上させることのほかに、安定して町外からも入学者を確保する必要性、ならびに七戸町の活性化には七戸高校の存在が必要不可欠であるということの理解の浸透が必要。

→近隣町村への広報活動の必要性

→町内外の参加者が集う町の行事やイベントの実施を通した七戸高校のPR

七戸高等学校振興のためのアンケート

中学生抽出考察

令和3年4月20日

要領

実施月	令和3年2月～令和3年3月
対象	七戸中学校・天間林中学校の生徒 294名
目的	①中学生の意向調査、ニーズの把握 ②アンケート実施自体での七戸高校取り組みの認知向上 ③令和3年度開校予定である公営塾の事前告知、認識調査

結果

アンケートの目的に沿った項目を抽出

高校選びの基準

1位	地元にある学校だから	24.5%
2位	自分の学力にあうから	21.2%
3位	将来の夢や目標をかなえるため、進学に有利と思うから	17.0%
4位	学びたい科目があるから	13.3%
5位	校訓や学校のイメージ・評判が良いから	10.5%

中学生の高校選択時の希望進路

大学進学を視野に入れている 生徒・・・46.1%

七戸町へ望む七戸高校への支援策（中学生合計）

1 位	教材費用補助	12.4%
2 位	制服購入費用補助	11.7%
3 位	修学旅行費用補助	11.1%
4 位	部活動遠征費用補助	9.9%
5 位	通学費用補助	9.8%

七戸高校へ望むもの（中学生合計）

1 位	部活動の充実	15.7%
2 位	学力の向上	15.1%
3 位	学校行事の充実	12.5%

高校の取組み・行事の認知度の課題

【中学生が「知らない」（50%以上）項目】3項目/5項目

多様な進路に対応した4つの系列	49.3%
自分の将来について考えるキャリア教育	55.1%
自分の進路や興味関心に合わせて「デザインできるカリキュラム」	57.5%
生徒一人一人の夢や希望に応じたきめ細かな進路指導	69.7%
トラジョサンバを通じた地域との交流	35.4%

公営塾の利用について（中学生合計）

●希望する授業回数

1 位	週2回	33.0%
2 位	週3回	25.9%
3 位	週1回	18.4%
4 位	週4回	7.1%
5 位	週5回以上	4.8%

●希望する自習回数

1 位	週2回	28.9%
2 位	週3回	24.1%
3 位	週1回	19.4%
4 位	週5回以上	11.9%
5 位	週4回	7.5%

公営塾開校となった場合の七戸高校への進学意欲（中学生合計）

ぜひ七戸高校へ進学したいと思う	23.1%
今よりは進学したいと思う気持ちが高まる	43.5%
今と変わらない	27.6%
(公営塾ができたからといって、七戸高校へ進学したいとは思わない)	
未回答	5.8%

考察

本アンケートの実施により、目的であった生徒ニーズの把握、アンケート実施自体での七戸高校の取組みの周知ができたものと考えます。

中学生の45%が大学進学を視野に入れており、公営塾が開校となった場合、70%程度の中学生が七戸高校への進学を検討したいと考えている。

- 町内中学生の30%程度が七戸高校へ進学している現状を考慮すると、公営塾の開校が七戸高校が中学生に選ばれる理由となり得る。
- 大学進学を目指せると判断される環境整備

部活動や、学校行事の充実といった「進学後の楽しみ」や「通学時の刺激」を重視し、高校を選ぶ中学生が多い。

- 町内外からの入学者を増やし、部活動の活性化、環境の多様化
- 高校学校行事の中学生への浸透

七戸高校に通っている先輩や教員の評判は良いが、学校自体の学力が低い、やりたい部活動が無いといった声が非常に多い。

- 大学進学を目指せると判断される環境整備
- 町内外からの入学者を増やし、部活動の活性化、環境の多様化

七戸高等学校振興のためのアンケート

実施報告（抽出総括）

令和3年4月20日

要領

実施月 令和3年2月～令和3年3月

対象	七戸高校1・2年生	194名
	七戸中学校・天間林中学校の生徒	294名
	七戸中学校・天間林中学校の保護者	297名
	アンケート実施総数	785名

目的 ①高校生、中学生、中学生保護者の意向調査、ニーズの把握
②アンケート実施自体での七戸高校取り組みの認知向上
③令和3年度開校予定である公営塾の事前告知、認識調査

結果

アンケートの目的に沿った項目を抽出

高校選びの基準（全対象合計）

1位	自分の学力に合う	24.8%
2位	地元にある学校	22.5%
3位	将来の夢や目標をかなえるため進学に有利	16.4%
4位	学びたい科目がある	12.7%
5位	学校のイメージ・評判	6.6%

中学生の高校選択時の希望進路

大学進学を視野に入れている	生徒・・・46.1%
	保護者・・・41.6%

七戸町へ望む七戸高校への支援策（高校生・中学生・中学保護者合計）

1 位	制服購入費用補助	13.6%
2 位	教材費用補助	12.8%
3 位	通学費用補助	11.3%
4 位	修学旅行費用補助	10.1%
5 位	学校給食提供	9.0%

七戸高校へ望むもの（中学生・中学生保護者合計）

1 位	学力の向上	21.7%
2 位	高い就職率	16.2%
3 位	部活動の充実	15.3%

七戸高校の募集停止に繋がる可能性があることに対する意見

▪ 存続を希望している意見	40 件
▪ 残念、寂しく思う	16 件
▪ どちらともいえない	4 件
▪ 募集停止も仕方ないとする意見	20 件

高校の取組み・行事の認知度の課題

【中学生・保護者が「知らない」（50%以上）項目】 3 項目/5 項目

多様な進路に対応した 4 つの系列	45.7%
自分の将来について考えるキャリア教育	54.8%
自分の進路や興味関心に合わせて「デザインできるカリキュラム」	55.2%
生徒一人一人の夢や希望に応じたきめ細かな進路指導	65.8%
トラジャ・サンパを通じた地域との交流	28.6%

公営塾の利用について(高校生合計)

1位	毎日ではないが、利用したい	27.8%
2位	テスト前やテスト期間中に利用したい	26.3%
3位	多分利用しない	19.1%
4位	利用しない	10.3%
5位	夏休みや冬休み等長期休暇中に利用したい	6.2%
6位	部活引退後に利用したい	4.6%
7位	ほぼ毎日利用したい	3.6%

公営塾の利用回数について(全対象合計)

●希望する授業回数

1位	週2回	34.4%
2位	週3回	30.6%
3位	週1回	16.6%
4位	週5回以上	6.1%
5位	週4回	6.9%

●希望する自習室利用回数

1位	週2回	23.2%
1位	週3回	23.2%
3位	週5回以上	21.4%
4位	週1回	17.1%
5位	週4回	8.7%

公営塾開校となった場合の七戸高校への進学意欲(中学生・中学生保護者合計)

ぜひ進学したい	22.8%
今よりは進学したい	46.5%
今と変わらない	26.7%
(公営塾が出来たからといって、七戸高校へ進学したい、進学させたいとは思わない)	
未回答	3.7%

考察

本アンケートの実施により、目的であった生徒・保護者のニーズの把握、アンケート実施自体での七戸高校の取組みの周知ができたものと考えます。

アンケート結果より明確化した七戸高校魅力化の課題

- ① 学力・偏差値・大学進学率の向上
- ② 部活動の多様化・強化
- ③ 利便性の向上（交通、買い物）
- ④ 地元での七戸高校（教員）への評価は高いにも関わらず町外進学者が減らない
- ⑤ 様々な取組みの認知度の不足

中学生や保護者の 40%以上が大学進学を視野に入れているが、結果として七戸高校は大学進学に有利ではないと判断されている。

総合学科だから進学を決めたとする回答が多い一方で、進学か就職のどちらかに特化してほしいという回答も多くあり、進学や就職への指導に対し不十分であるとする生徒や保護者が多い。

→大学進学を目指せると判断される環境整備

・ →将来を見据え、安心して通わせられる環境づくり

その他、部活動、競争力、人間関係や環境に刺激を求めて町外の高校に進学する中学生が多い。

→町内外からの入学者を増やし、部活動の活性化、環境の多様化

→外部人材の活用

自然豊かな環境が魅力であると認識されているが、明るい・活気があるといったイメージが無い。

→強みを生かし、不便さを魅力へ

→町内で勉強や部活に集中でき、子どもたちが生き生きと出来る環境のアピール

教員の熱心な指導は中学生や保護者にまで知れ渡っているも、学校自体の学力が低いと思われる。

→これ以上教員に過剰な負担を強いることは評価を下げることになりかねない

→学校以外での環境や仕組みの整備と広報活動の必要性

七戸高校の存続のためには、地元進学率の向上に加え、安定して町外からも入学者を確保する必要性、ならびに七戸町の活性化には七戸高校の存在が必要不可欠であるということの理解の浸透が必要。

→近隣町村への広報活動の必要性

→町内外の参加者が集う町の行事やイベントの実施を通した七戸高校の PR

総括

- ◆ 学力（偏差値、大学進学率）の向上 ……都市部と変わらない学校外での学習環境の整備
- ◆ 認知度の向上 ……他高校との差別化、PR活動の活性化、地元進学率
- ◆ 町内外からの入学者の確保 ……学校の存続、進路を選択できる環境整備、町民理解
- ◆ 生徒数増加に伴い部活動活性化 ……魅力化の次段階

上記4点が、七戸高校魅力化の鍵になると考えられます。

七戸高校の地域に密着した活動は町民に知られており、決して悪いイメージではありません。

- 地元進学率の向上
- 入学者の確保

の為には、魅力的と捉えられる「付加価値」が必要です。

公営塾構想は、部活動や通学の利便性とはリンクできませんが、付加価値としての存在には大きく成り得ます。

PR活動の発信基地、都市部と変わらない学習環境整備と競争意識や向上意欲を促進する外部機関としての機能が果たせるためです。

スピーディーな七戸高校の魅力化推進が期待できます。

町民が求める七戸高校のあり方を実現し、子どもたちが18歳まで地元で過ごせる、保護者が安心して子育てができる、特色ある魅力的な町づくりに寄与するものと考えます。